

IV 地域別構想 関屋周辺地区のまちづくり

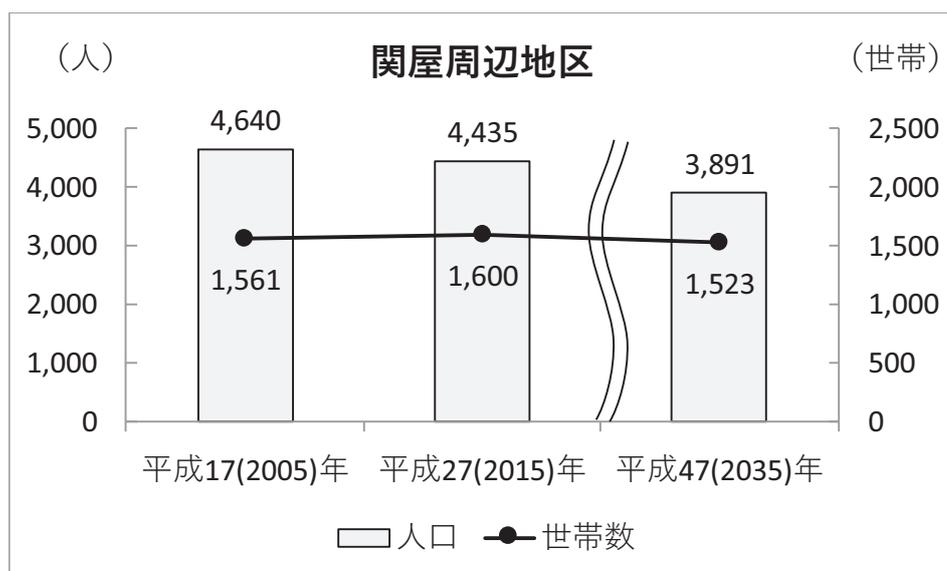
(4) 関屋周辺地区のまちづくり

1) 地区の概況【関屋周辺地区】

本地区は、近鉄関屋駅を有し、小規模な住宅開発地や関屋北住宅団地等で構成されています。また、住宅団地の大半を含んで、金剛生駒紀泉国定公園が位置しており、国道165号（中和幹線）により大阪市に通じています。



本地区の人口は、国勢調査の結果によると、平成17（2005）年の4,640人から減少し、平成27（2015）年には4,435人となっています。世帯数については平成17（2005）年の1,561世帯から僅かに増加しており、平成27（2015）年には1,600世帯となっています。平成47（2035）年における人口及び世帯数は、人口が3,891人、世帯が1,523世帯といずれも減少傾向にあることが予測されています。

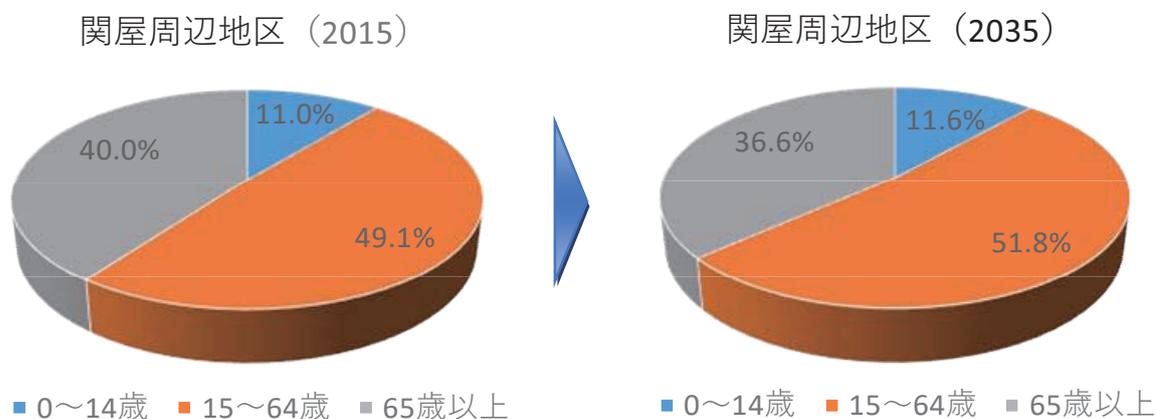


※平成47（2035）年の将来予測については、「国土交通省 国土技術政策総合研究所における将来人口・世帯予測ツール」を使用しています。

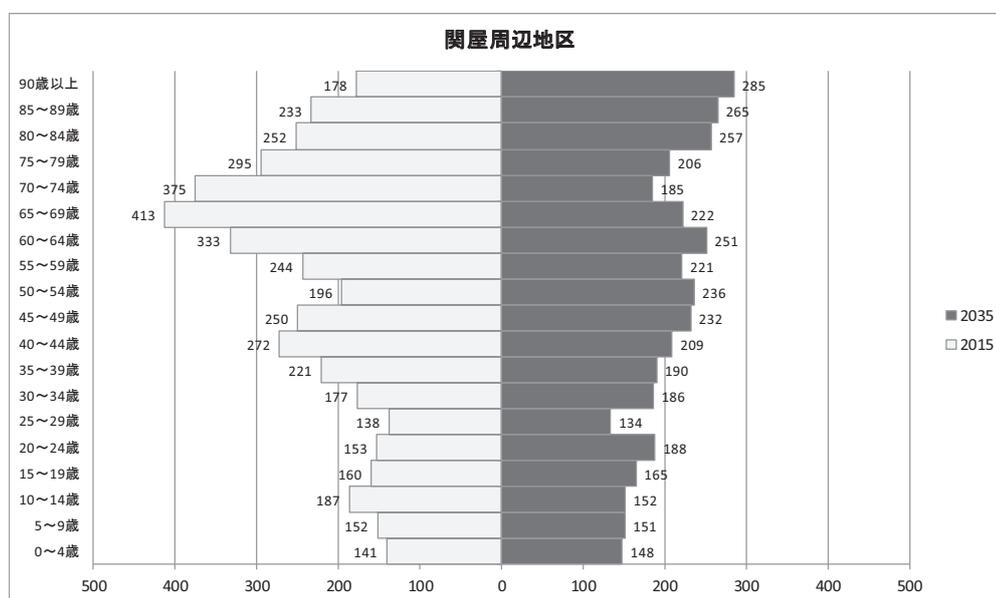
本地区の平成27（2015）年の年齢3区分の人口割合は、0～14歳の年少人口率が11.0%、15～64歳の生産年齢人口率が49.1%、65歳以上の老年人口率が40.0%となっており、本市全体と比べて年少人口率（16.9%）及び生産年齢人口率（60.8%）が大幅に低く、老年人口率（22.3%）が大幅に高い傾向となっています。大字別で見ると、関屋や田尻では、年少人口率が本地区の割合よりも若干高く、老年人口率が地区全体の割合よりも大幅に低くなっています。関屋北では、年少人口率が他よりも割合が低く、老年人口率が大幅に高くなっています。本地区の平成47（2035）年の年齢3区分の人口割合は、年少人口率が11.6%、生産年齢人口率が51.8%、老年人口率が36.6%となることが予測されており、平成27（2

Ⅳ 地域別構想 関屋周辺地区のまちづくり

〇15)年と比較すると、年少人口率が0.6%の増加、生産年齢人口率が2.8%の増加、老年人口率が3.4%の減少となり、少子高齢化の進展による本格的な人口減少となることがうかがえます。大字別でみると、関屋及び田尻で生産年齢人口率の減少、関屋北で老年人口率の減少が顕著となることが予測されています。



本地区の平成27(2015)年と平成47(2035)年の人口ピラミッドを比較すると、平成27(2015)年では65～69歳の年代とその周辺、40～44歳の年代とその周辺で人口が多く分布し、平成47(2035)年では、90歳以上の年代とその周辺、60～64歳とその周辺の年代で人口が多く分布しています。現在の少子高齢化が進み、人口減少がさらに進展することが予測されています。



IV 地域別構想 関屋周辺地区のまちづくり

2) 現状分析と課題抽出

① 豊かな自然環境の保全・活用と防災・減災対策の推進

- ・ 金剛生駒紀泉国定公園等の緑や旗尾池など豊かな自然環境が広がっています。
- ・ 地区の南部では、香芝総合公園が一部供用しており、緑の拠点が形成されつつあります。
- ・ 近鉄関屋駅周辺や関屋北住宅団地背後の山地には土砂災害警戒区域等が指定されており、減災対策が必要となっています。

⇒豊かな自然環境を有する地域として、自然環境や景観の保全・活用や防災・減災対策による安全・安心な市街地環境の創出が求められています。

② 地域生活拠点の充実と交通利便性の向上

- ・ 近鉄関屋駅を有しており、本地区の生活拠点となっています。
- ・ 近鉄関屋駅周辺には店舗等の商業施設がほとんど無く、駅周辺における都市基盤施設の整備や大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス跡地へ地域の活性化につながる施設の立地誘導が求められています。
- ・ 東西に国道165号（中和幹線）が通っています。
- ・ 未整備の都市計画道路があり、優先的な整備が求められています。

⇒中心市街地や隣接市町などへのアクセス道路の整備と併せた駅周辺の利便性向上による快適なまちづくりが求められています。

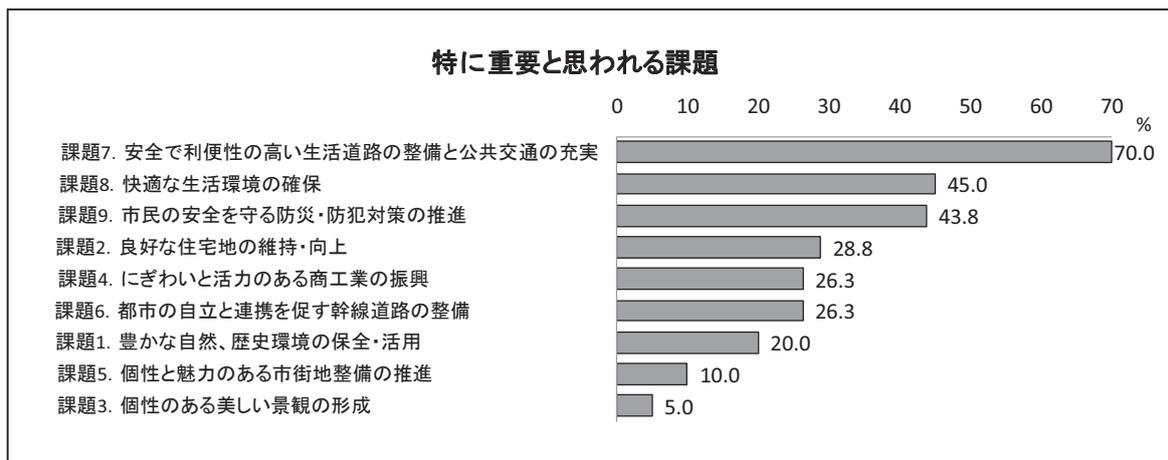
③ 快適な生活環境の確保と良好な住宅地の維持・向上

- ・ 関屋北住宅団地は、昭和40年代に開発された住宅団地であり、人口の減少や居住者の高齢化の進行、建物の老朽化が懸念されています。居住者の年齢構成も高齢者人口が多く、世代間バランスが不均衡となっています。
- ・ 今後予想される世帯減少に伴い、空き家の増加が懸念されます。

⇒人口・世帯の減少や住民の高齢化により、地域の活力が低下することを防ぎ、住民とともに住環境の維持・向上を図っていきます。

④ 市民アンケート調査結果

市民アンケート調査の結果における本地区の特に重要と思われる課題は、「安全で利便性の高い生活道路の整備と公共交通の充実」が最も回答が多く、次いで、「快適な生活環境の確保」「市民の安全を守る防災・防犯対策の推進」となっています。



3) まちづくりの目標

地域別構想における本地区のまちづくりの目標を以下に示します。

『自然豊かで安全・安心な住環境の創造』

豊かな自然環境を有する地域として、自然環境や景観の保全と活用を図りながら、防災・減災対策と都市計画道路の整備、住環境の維持・改善による生活環境の向上を推進します。

4) まちづくりの方針

まちづくりの目標を踏まえ、現状分析と課題抽出、全体構想での都市の将来像などに基づいて、まちづくりと整備の方針を以下のように設定します。

① まちづくりの方針

ア. 豊かな自然環境の保全・活用と防災・減災対策の推進

豊かな自然環境や景観を保全・活用し、自然に親しむ空間づくりを創出するとともに、自然災害等への対策をはじめとした防災・減災対策を推進します。

イ. 快適な生活環境の形成

都市計画道路の整備を推進し、中心市街地や隣接市町などのアクセス性の向上に併せて駅周辺の利便性向上や公共交通などの充実など快適な生活環境を形成します。

ウ. 良好な住環境の維持・向上と住宅団地の活性化

住民が主体となった満足度の高いまちづくりを応援するなど、住環境の維持・向上と活性化を図っていきます。

② 整備方針

I. 住宅地の整備

- 関屋北住宅団地については、ゆとりある戸建て低層住宅を中心とした良好な住環境の維持・向上を促進し、地域住民と連携して幅広い世代が居住できる環境づくりに取り組んでいきます。また、地域の活性化やにぎわいづくりのため、住民が主体となった店舗の立地や景観形成などに関する地域のルールづくりや取り組みの構築を検討します。

IV 地域別構想 関屋周辺地区のまちづくり

II. 豊かな自然環境の保全・活用

- ・ 緑豊かな自然環境などと調和した良好な住環境の維持・向上を図るため、金剛生駒紀泉国定公園等における自然環境や旗尾池等のため池景観の保全と活用を図ります。
- ・ 香芝総合公園を休息・鑑賞・散策・運動等の総合的な利用を目的とした、多くの人達が自然とふれあえる場として整備を促進します。
- ・ 香芝総合公園の整備とともに、どんづる峯周辺の散策道の整備を一体的に検討します。

III. 交通網等の整備

- ・ 穴虫田尻線については、香芝市街路整備プログラムにおいて、平成33（2021）年度から平成37（2025）年度に事業着手するとされており、本地区の重要な幹線道路として整備を図っていきます。
- ・ 国道165号の渋滞による周辺環境の悪化を防止し、大阪から市内へのゲートとしてふさわしい環境創出のため、中和幹線の拡幅整備を促進します。
- ・ デマンド交通やコミュニティバスの運行方法について関係機関や地域住民とともに検討し、公共交通の効率化と利便性向上を図ります。
- ・ 幹線道路へ接続する生活道路の改善や歩行者通路の確保を図り、交通利便性及び安全や防災性の向上に貢献するため、自治会等の協力を得ながら、狭あい道路の解消に努めます。

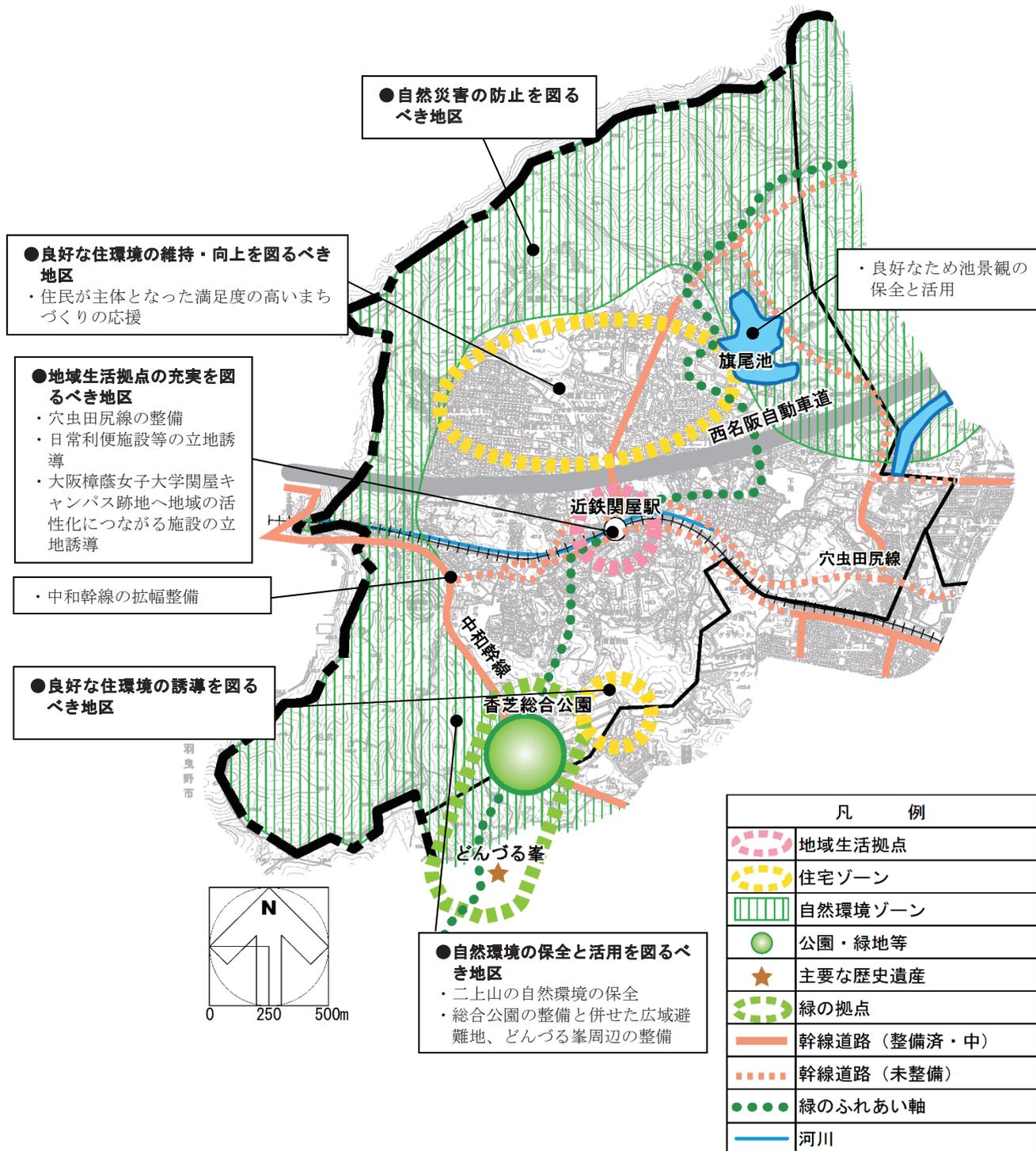
IV. 地域活力の創造

- ・ 近鉄関屋駅周辺については、地域住民に便利な日常生活施設等の立地を促進し、穴虫田尻線の整備と併せて地域拠点性を高めます。また、大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス跡地へは、地域の活性化につながる施設の立地を誘導します。
- ・ 拡幅整備が完了し、4車線化された中和幹線（国道165号）沿道では、恵まれた交通条件を活かし、地域の魅力を発信する場、地域への誘客施設として道の駅の整備を推進します。

V. 地域の活性化と防災性の向上

- ・ 誰もが安心して暮らせる環境づくりと地域の活性化を促進するため、関係機関や地元住民と連携し、土砂災害予防対策を推進するとともに、警戒避難体制等の整備を図ります。
- ・ 香芝総合公園は、全体の整備と併せて広域避難地として指定し、防災性の向上に努めます。

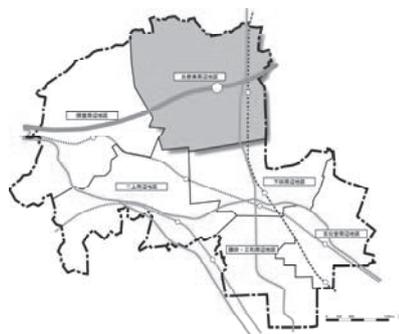
図 関屋周辺地区のまちづくり方針図



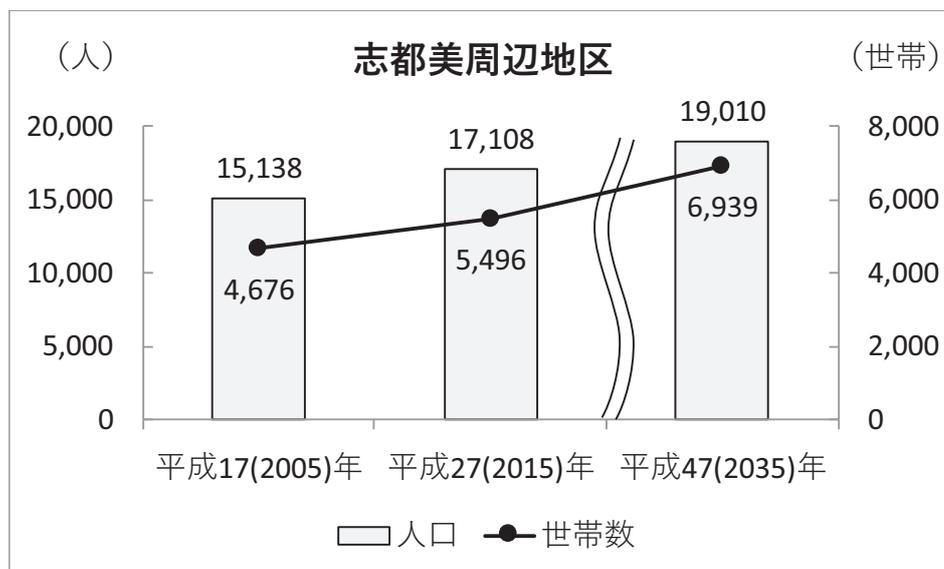
(5) 志都美周辺地区のまちづくり

1) 地区の概況【志都美周辺地区】

本地区は、JR志都美駅を有し、古くから形成された市街地や旭ヶ丘住宅団地・白鳳台住宅団地等で構成されています。また、西部には金剛生駒紀泉国定公園が広がり、北部には尼寺廃寺跡や平野塚穴山古墳、南部には武烈天皇陵等が位置するなど、自然環境や歴史遺産に恵まれています。さらに、地区を縦断する国道168号や西名阪自動車道香芝ICが位置しているなど広域交通基盤が充実しています。



本地区の人口は、国勢調査の結果によると、平成17（2005）年の15,138人から急増しており、平成27（2015）年には17,108人となっています。世帯数についても平成17（2005）年の4,676世帯から増加しており、平成27（2015）年には5,496世帯となっています。平成47（2035）年における人口及び世帯数は、人口が19,010人、世帯が6,939世帯といずれも急増することが予測されています。

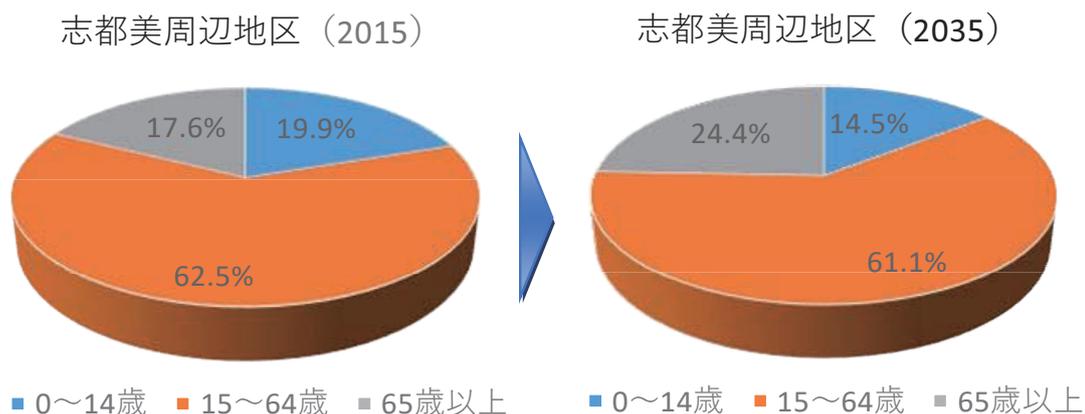


※平成47（2035）年の将来予測については、「国土交通省 国土技術政策総合研究所における将来人口・世帯予測ツール」を使用しています。

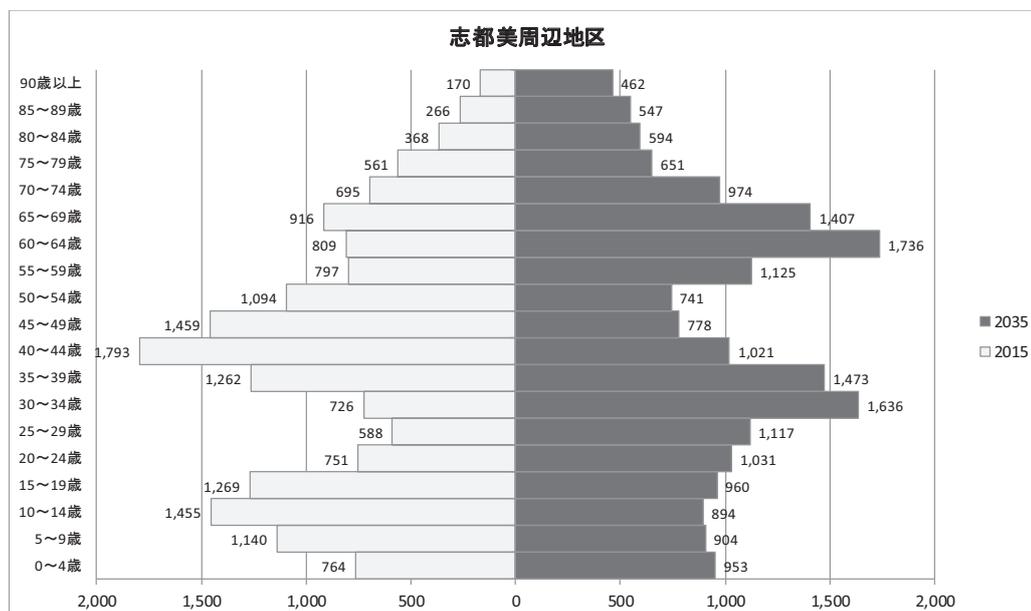
本地区の平成27（2015）年の年齢3区分の人口割合は、0～14歳の年少人口率が19.9%、15～64歳の生産年齢人口率が62.5%、65歳以上の老年人口率が17.6%となっており、本市全体と比べて年少人口率（16.9%）及び生産年齢人口率（60.8%）が高く、老年人口率（22.3%）が低い傾向となっています。大字別でみると、旭ヶ丘では、年少人口率が本地区の割合よりも高く、老年人口率が地区全体の割合よりも大幅に低くなっており、白鳳台では、年少人口率が本地区の割合よりも低く、老年人口率が地区全体の割合よりも高くなっています。本地区の平成47（2

IV 地域別構想
志都美周辺地区のまちづくり

035)年の年齢3区分の人口割合は、年少人口率が14.5%、生産年齢人口率が61.1%、老年人口率が24.4%となることが予測されており、平成27(2015)年と比較すると、年少人口率が5.4%の減少、生産年齢人口率が1.3%の減少、老年人口率が6.8%の増加となり、少子高齢化が進展することがうかがえます。大字別で見ると、旭ヶ丘で年少人口率の減少及び老年人口率の増加、白鳳台で生産年齢人口率の減少が顕著となることが予測されています。



本地区の平成27(2015)年と平成47(2035)年の人口ピラミッドを比較すると、平成27(2015)年では40～44歳の年代とその周辺、10～14歳の年代とその周辺、次いで、65～69歳の年代とその周辺で人口が多く分布し、平成47(2035)年では、60～64歳の世代とその周辺、30～34歳の年代とその周辺で人口が多く分布しています。現在のファミリー層が今後高齢化し、高齢者世代が大きく増加していくとともに、生産年齢人口も微増していくことが予測されています。



IV 地域別構想 志都美周辺地区のまちづくり

2) 現状分析と課題抽出

① 豊かな自然環境や歴史資源の保全と活用

- ・ 金剛生駒紀泉国定公園等の緑など豊かな自然環境が広がっています。
- ・ 香芝市スポーツ公園事業として、周囲の自然環境と調和した屋外レクリエーションや防災拠点として整備計画されています。
- ・ 尼寺廃寺跡、平野塚穴山古墳、武烈天皇陵等、歴史的資源が分布しています。

⇒豊かな自然環境や歴史的資源を有する地域として、保全・活用が求められています。

② 地域生活拠点の充実と交通環境の充実

- ・ JR志都美駅を有し、駅周辺は土地区画整理事業に合わせて駅前広場や駅舎などが整備され、本地区の生活拠点が形成されています。
- ・ 東西に西名阪自動車道が通っており、香芝ICを有しています。
- ・ 南北に国道168号が通っており、本地区から中心市街地への主要なアクセス道路になっています。
- ・ 未整備の都市計画道路があり、優先的な整備が求められています。
- ・ 香芝IC北地区や志都美駅西地区では、地区計画により都市の活性化や適切かつ合理的な土地利用が図られています。

⇒中心市街地や隣接市町などへのアクセス道路の整備と駅周辺や西名阪自動車道などを活用した利便性向上による快適なまちづくりが求められています。

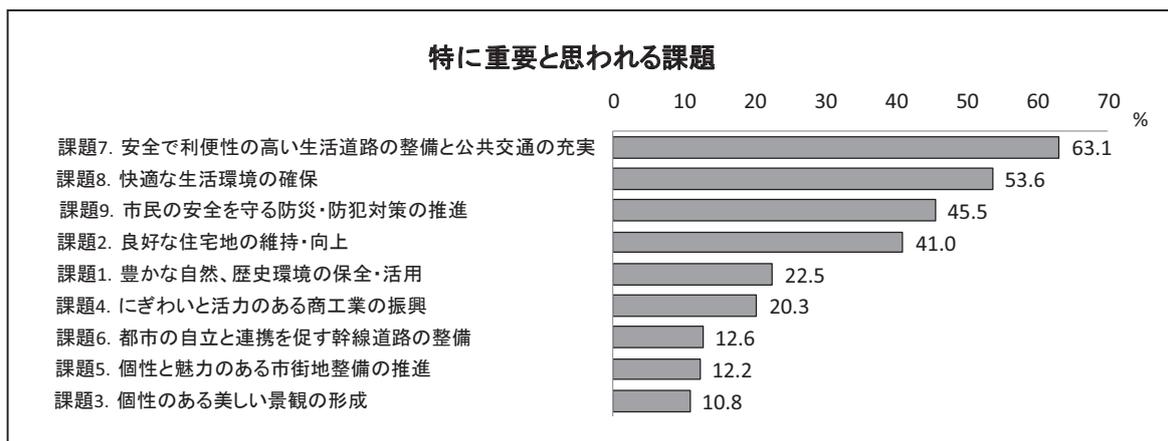
③ 快適な生活環境の確保と良好な住宅地の維持・向上

- ・ 白鳳台住宅団地は、昭和50年代後半に開発された住宅地団地であり、人口の減少や居住者の高齢化の進行、建物の老朽化が懸念されています。居住者の年齢構成も高齢者人口が多く、世代間バランスが不均衡となっています。
- ・ 旭ヶ丘住宅団地は、近年開発された住宅団地であり、ファミリー層の人口分布が多く、居住者の年齢構成に偏りが見られることから、今後の急激な少子高齢化が懸念されています。
- ・ 市街化調整区域では、都市にうるおいをもたらす自然と調和した生活環境が形成されています。

⇒開発された時期が異なる住宅地などでは、それぞれ異なる問題を抱えており、住民とともに地域ごとに適した住環境の維持・改善を図っていきます。

④ 市民アンケート調査結果

市民アンケート調査の結果における本地区の特に重要と思われる課題は、「安全で利便性の高い生活道路の整備と公共交通の充実」が最も回答が多く、次いで、「快適な生活環境の確保」「市民の安全を守る防災・防犯対策の推進」「良好な住宅地の維持・向上」となっています。



3) まちづくりの目標

地域別構想における本地区のまちづくりの目標を以下に示します。

『地域資源を育む利便性の高い住環境の創造』

豊かな自然環境や歴史的資源を有する地域として、保全と活用を図りながら、都市計画道路の整備、住環境の維持・改善による生活環境の向上を推進します。

4) まちづくりの方針

まちづくりの目標を踏まえ、現状分析と課題抽出、全体構想での都市の将来像などに基づいて、まちづくりと整備の方針を以下のように設定します。

① まちづくりの方針

ア. 豊かな自然環境と歴史的資源の保全・活用

豊かな自然環境や景観を保全・活用し、自然に親しむ空間づくりを創出するとともに、自然災害等への対策をはじめとした防災・減災対策を推進します。

イ. 快適な生活環境の形成

都市計画道路の整備を推進し、中心市街地や隣接市町などのアクセス性向上と駅周辺の利便性向上による良好な生活環境を形成します。また、西名阪自動車道や国道168号を活用した、地域の活性化を図っていきます。

ウ. 良好な住環境の維持・向上と住宅団地の活性化

現在の良好な住環境を次世代に継承していくため、住民主体が主体となって地域ごとに適したまちづくりに取り組むことを支援します。

② 整備方針

I. 住宅地の整備

- 白鳳台住宅団地については、ゆとりある戸建て低層住宅を中心とした良好な住環境の維持・向上を促進します。また、都市基盤の老朽化や居住者の高齢化への対応を地域住民と連携して行い、既存住宅の流通を促進するなど幅広い世代が居住できる環境づくりに取り組んでいきます。
- 旭ヶ丘住宅団地においては、引き続き良好な住環境の維持・向上を図ります。また、今後予想される急激な高齢化に対応するため、地域住民と連携して時代やニーズの変化に応じたまちづくりの支援に努めます。

Ⅳ 地域別構想

志都美周辺地区のまちづくり

Ⅱ. 豊かな自然や農業環境、歴史的資源の保全・活用

- 金剛生駒紀泉国定公園等の豊かな自然環境や分川池等のため池景観の保全と活用を図ります。
- 地域コミュニティや本市のふるさと意識を醸成するための地域交流拠点として、地域住民と連携し、香芝市スポーツ公園を整備します。
- 豊かな自然や地域の歴史に触れあえる近畿自然歩道や太子道、尼寺廃寺史跡公園等の歴史的資源の有効活用により、地域の活性化や観光の振興を図ります。
- 市街化調整区域における一定の開発を許容する指定区域では、計画的な農業生産の場の確保に努めつつ、地域コミュニティの活性化を図ります。
- 農業の振興と併せて、地域住民等との交流を促進するため、直売所との連携や市民農園等の整備を促進します。
- のどかな田園風景や市街地の住環境を保全するため、遊休農地や休耕田を市民農園として活用する特定農地貸付事業等による斡旋を行います。
- 農業振興地域等においては、野菜や果樹の生産性を確保するため農地の保全を図ります。

Ⅲ. 交通網等の整備

- 地域内や中心市街地への人や自転車等による安全で快適な通行を確保するため、奈良西幹線の整備を促進し、歩道の確保に努めます。
- 畑分川線・尼寺関屋線の一部区間については、円滑な道路ネットワークの形成と香芝市スポーツ公園等へのアクセス道路として整備を図っていきます。
- デマンド交通やコミュニティバスの運行方法について関係機関や地域住民とともに検討し、公共交通の効率化と利便性向上を図ります。
- 幹線道路へ接続する生活道路の改善や歩行者通路の確保を図り、交通利便性及び安全や防災性の向上に貢献するため、自治会等の協力を得ながら、狭あい道路の解消に努めます。

Ⅳ. 沿道における地域振興と良好な景観形成の促進

- 恵まれた交通条件を有する西名阪自動車道香芝IC周辺においては、地域の活性化を促進するため、地区計画等の活用により周辺環境との調和を図りながら、流通関連施設や商業施設などの立地を計画的に誘導します。
- 奈良西幹線沿道について、周辺環境に配慮しながら地区計画等の策定により、新規企業の立地を計画的に誘導します。
- 奈良西幹線の整備とともに、本市のシンボルロードにふさわしい景観形成のあり方を検討し、秩序ある沿道サービス施設の立地誘導や統一感のある美しい沿道景観の誘導などを検討します。

Ⅴ. 安全で魅力ある環境の創造

- 香芝市スポーツ公園は、広域避難地として防災関連施設を整備し防災性の向上に努めます。
- JR志都美駅周辺においては地区計画等により、商業・業務地としての集積を図り、賑やかさと利便性及び快適性を備えた良好な市街地環境の形成に努めます。

Ⅳ 地域別構想 志都美周辺地区のまちづくり

図 志都美周辺地区のまちづくり方針図



IV 地域別構想

鎌田・三和周辺地区のまちづくり

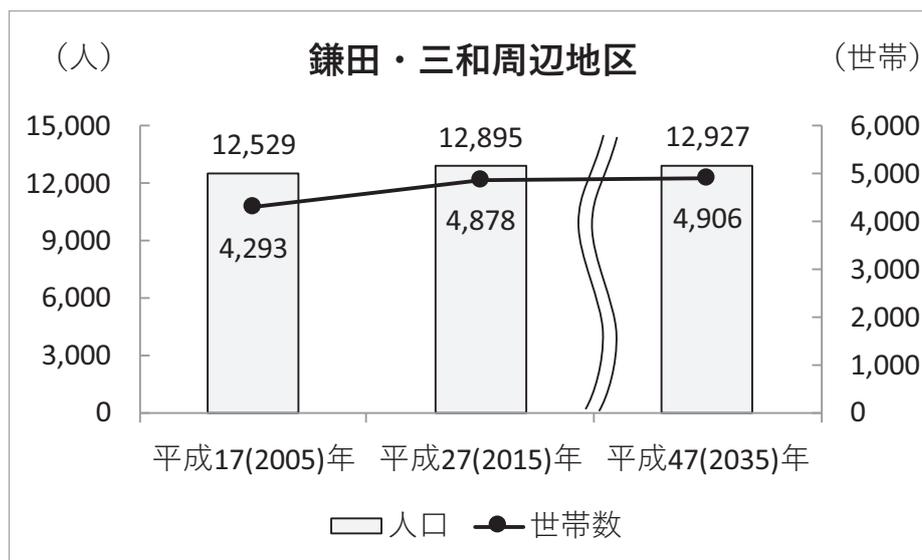
(6) 鎌田・三和周辺地区のまちづくり

1) 地区の概況【鎌田・三和周辺地区】

本地区は、近鉄下田駅、近鉄五位堂駅、JR五位堂駅の背後地に位置し、比較的小規模な民間住宅開発の進行により、農地と住宅が混在する地区が形成されています。また、地区内には狐井城山古墳、阿日寺等の歴史遺産やため池等が位置しているとともに、地区を縦断する国道168号が幹線道路となっています。



本地区の人口は、国勢調査の結果によると、平成17（2005）年の12,529人から微かに増加しており、平成27（2015）年には12,895人となっています。世帯数についても平成17（2005）年の4,293世帯から増加しており、平成27（2015）年には4,878世帯となっています。平成47（2035）年における人口及び世帯数は、人口が12,927人、世帯が4,906世帯といずれも微増となることが予測されています。

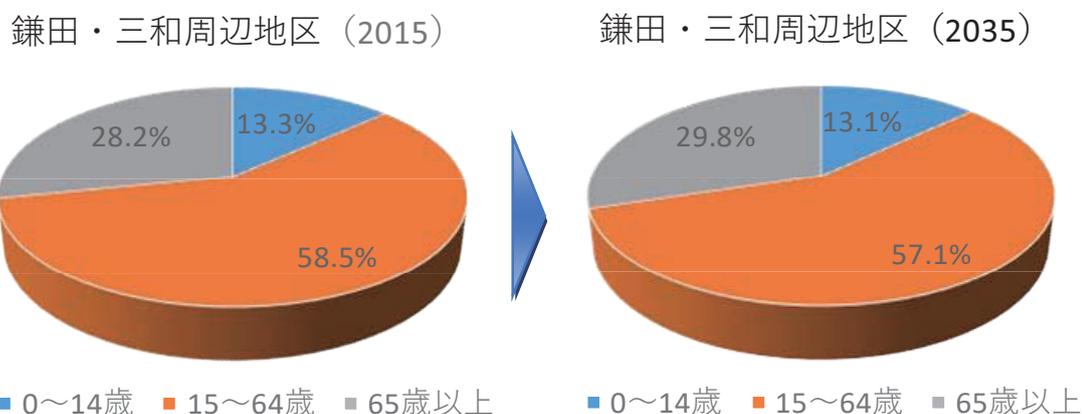


※平成47（2035）年の将来予測については、「国土交通省 国土技術政策総合研究所における将来人口・世帯予測ツール」を使用しています。

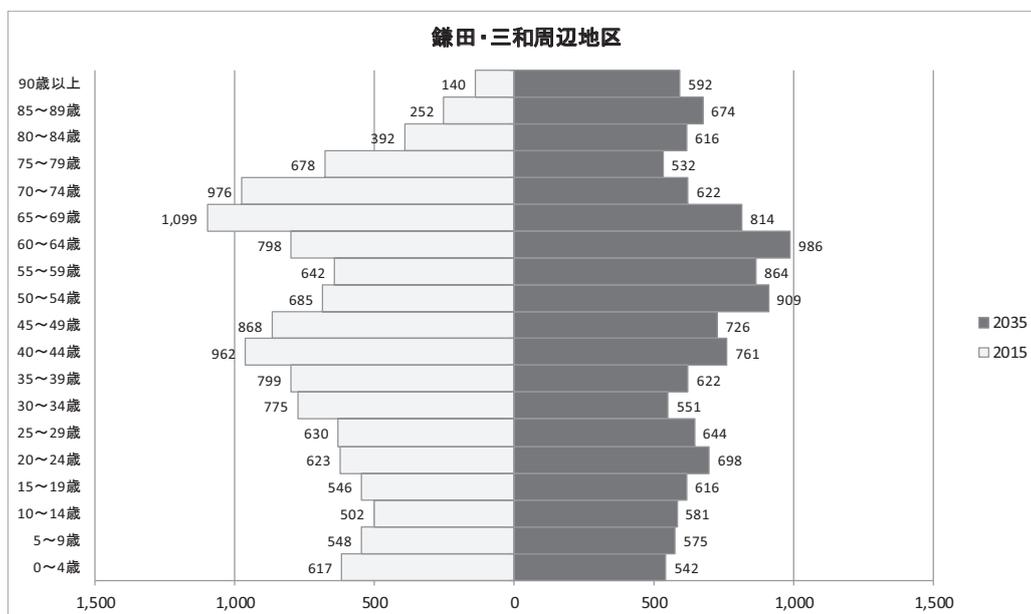
本地区の平成27（2015）年の年齢3区分の人口割合は、0～14歳の年少人口率が13.3%、15～64歳の生産年齢人口率が58.5%、65歳以上の老年人口率が28.2%となっており、本市全体と比べて年少人口率（16.9%）及び生産年齢人口率（60.8%）が低く、老年人口率（22.3%）が高い傾向となっています。大字別でみると、狐井や磯壁では、年少人口率が本地区の割合よりも高く、老年人口率が地区全体の割合よりも低くなっており、良福寺では、年少人口率が地区全体の割合よりも低く、老年人口率が地区全体の割合よりも高くなっています。本地区の平成47（2035）年の年齢3区分の人口割合は、年少人口率が13.1%、生産年齢人口率が57.1%、老年人口率が29.8%となることが予測されており、平成27（2015）

Ⅳ 地域別構想 鎌田・三和周辺地区のまちづくり

年と比較すると、年少人口率が0.2%の減少、生産年齢人口率が1.4%の減少、老年人口率が1.6%の増加となり、少子高齢化が進展することがうかがえます。大字別で見ると、磯壁で年少人口率の減少及び老年人口率の増加、磯壁や良福寺で生産年齢人口率の減少が顕著となることが予測されています。



本地区の平成27（2015）年と平成47（2035）年の人口ピラミッドを比較すると、平成27（2015）年では65～69歳の年代とその周辺、40～44歳の年代とその周辺で人口が多く分布し、平成47（2035）年では、60～64歳の世代とその周辺、20～24歳の年代とその周辺で人口が多く分布しています。現在のファミリー層が今後高齢化し、高齢者世代が増加していくことが予測されています。



IV 地域別構想

鎌田・三和周辺地区のまちづくり

2) 現状分析と課題抽出

① 利便性・安全性の向上と快適な道路交通ネットワークの形成

- 南北に国道168号が通っており、本地区から中心市街地への主要なアクセス道路になっています。
- 地区内には鉄道駅が存在しておらず、駅への通勤通学や日常の買物に使われる主要な生活道路のネットワークの形成、歩行者や自転車等の安全確保が求められています。
- 本地区と中心市街地周辺等を円滑に結びバス交通サービス等の充実が求められています。

⇒歩行者や自転車に配慮された安全で快適な道路交通ネットワークの形成を図っていきます。

② 豊かな地域資源の保全と活用

- 狐井城山古墳や阿日寺等の歴史遺産等が分布しており、こうした地域資源の活用やネットワーク化が求められています。
- 市街化調整区域には、農地やため池などが広がっています。
- 二上山を望む特に優れた視点場があり、良好な田園環境が広がっています。

⇒豊かな地域資源を有する地域として、保全・活用が求められています。

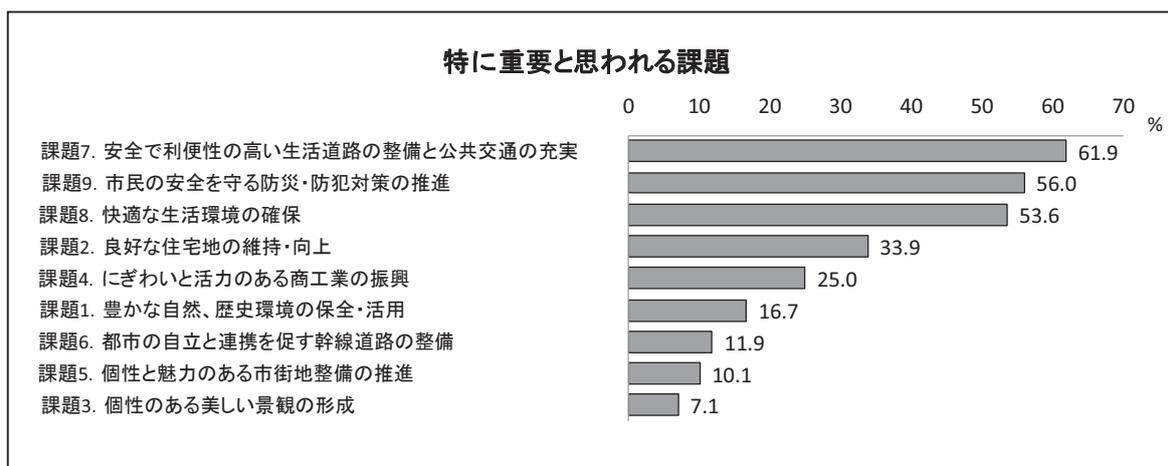
③ 快適な生活環境の確保と良好な住宅地の維持・向上

- 狐井や磯壁などでは、スプロール的に市街化が進行しています。
- 磯壁、良福寺、鎌田の一部では低層戸建て住宅を中心とした住宅地が広がっています。
- 田園環境と調和したゆとりある住環境の形成が求められています。

⇒住民とともに地域ごとに適した住環境の維持・改善を図っていきます。

④ 市民アンケート調査結果

市民アンケート調査の結果における本地区の特に重要と思われる課題は、「安全で利便性の高い生活道路の整備と公共交通の充実」が最も回答が多く、次いで、「市民の安全を守る防災・防犯対策の推進」「快適な生活環境の確保」となっています。



3) まちづくりの目標

地域別構想における本地区のまちづくりの目標を以下に示します。

『地域資源と調和した良好な住環境の創造』

豊かな地域資源を有する地域として、保全と活用を図りながら、道路交通ネットワークの形成、住環境の維持・改善による生活環境の向上を推進します。

4) まちづくりの方針

まちづくりの目標を踏まえ、現状分析と課題抽出、全体構想での都市の将来像などに基づいて、まちづくりと整備の方針を以下のように設定します。

① まちづくりの方針

ア. 安全で快適な生活環境の形成

中心市街地や駅へのアクセス性向上と安全で快適な生活道路の整備を図り、国道168号等を骨格とする円滑な交通ネットワークを形成します。

イ. 豊かな地域資源の保全・活用

豊かな地域資源を保全・活用し、これらをつなぐ歩行空間のネットワークを形成します。また、農地の有効活用や田園環境を活かした地域景観の向上を図っていきます。

ウ. 良好な住環境の維持・向上

良好な住環境の維持・向上を図り、住民とともに地域ごとに適したまちづくりを促進します。

② 整備方針

I. 住宅地の整備

- 本地域の低層戸建て住宅を中心とした住宅地については、ゆとりある良好な住環境の維持・向上に努めます。また、都市基盤の老朽化や居住者の高齢化への対応を地域住民と連携して行い、既存住宅の流通を促進するなど幅広い世代が居住できる環境づくりに取り組んでいきます。

IV 地域別構想

鎌田・三和周辺地区のまちづくり

- 生活道路等の基盤が未整備な地域では、老朽住宅の耐震化や更新時に合わせた適切な幅員の道路確保等に努めます。また、地域住民が主体となって改善に取り組むことを支援し、住民・事業者・行政の適切な役割分担による良好な住環境の整備と防災性の向上を図ります。

II. 豊かな地域資源の保全・活用

- 二上山への良好な眺望を確保するため、二上山の特に優れた視点場となっている農地やため池等の保全を図ります。

III. 交通網等の整備

- 狐井城山古墳の歴史資源や周辺の新池親水公園等を結ぶ歩行空間のネットワーク形成に努めます。
- 近鉄下田駅、近鉄五位堂駅、JR五位堂駅及びその他周辺商業地等への生活道路のネットワーク形成や国道168号等の整備によりアクセス機能の強化に努めます。
- デマンド交通やコミュニティバスの運行方法について関係機関や地域住民とともに検討し、公共交通の効率化と利便性向上を図ります。
- 幹線道路へ接続する生活道路の改善や歩行者通路の確保を図り、交通利便性及び安全や防災性の向上に貢献するため、自治会等の協力を得ながら、狭あい道路の解消に努めます。

IV. 農地・緑地の保全・活用

- のどかな視点場の風景や、農地が混在する住宅地環境の維持・向上を図るため、遊休農地や休耕田における適切な管理運営・助言を行い、市民農園などへの活用を図ります。また、農業振興地域等においては農地の保全を図ります。

V. 地区の活性化と防災性の向上

- 誰もが安心して暮らせる環境づくりと地域の活性化を促進するため、地域住民と連携して、防災強化に繋がる取り組みや自主防災組織等の活動を支援します。

Ⅳ 地域別構想 鎌田・三和周辺地区のまちづくり

図 鎌田・三和周辺地区のまちづくり方針図

